

2011 年湘南藤沢学会 「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」 報告書  
東京都三宅村における情報端末の利用状況に関する調査  
慶應義塾大学 政策・メディア研究科 修士課程 1 年 上地里佳

### 【調査目的】

本調査は、加藤文俊研究室が関与している「三宅島大学プロジェクト」のサブプロジェクトとして位置づけられるもので、今回は、申請者が指揮をとり、学部生とともにいくつかのグループを編成し、島内の各地区でフィールドワークとインタビュー調査を行う。三宅村の各戸に配布されている情報端末は、導入されて間もないこともあり、端末利用が島民間にあまり浸透していないのが現状だ。主に緊急時の利用を想定しているが、日常的なコミュニケーションにおける活用や、全戸に設置されているという特質を活かした新たなコンテンツ制作の可能性等について考察し、日常的に利用してもらえるような仕組みづくりにつなげていきたい。可能であれば、今回の調査で収集したデータを元に、映像コンテンツを試作したい。

### 【インタビュー調査】

2011 年 12 月 2 日(金)～4 日(土)に、学部生とともに、島内の各地区で情報端末の利用状況に関するインタビュー調査を行った。インタビューの際には、以下のような項目を主軸に行った。

#### <インタビュー項目>

---

① IP 告知端末(情報端末)は利用しますか？

【毎日 / 週 3 日程度 / 週 1 日程度 / 月 1 程度 / 全く利用しない】

② 利用するのは、どのようなときですか？

－「全く利用しない」という方に質問。

③ 利用しない理由を教えてください。(自由回答)

---

今回の調査では、計 27 人の島民にインタビュー調査を行うことができた。①に関して、設定した項目以外に、「適宜」という意見があったため項目に加え、集計した。(図参照)

### 【考察】

今回の調査で情報端末に関してのインタビューをさせていただいた中では、20 人が利用、7 人が全く利用しないという結果となった。利用頻度と利用シーンを合わせてみると、頻度が少ないほど「電話のみ」の利用が多く、頻度が高いほど配信されてくる情報に触れていることがわかった。配信されてくる情報を楽しみにしているという 80 代女性の意見や、「子ども同士が連絡とったりしている」という意見からは、幅広い年代が利用していることがわかり、年代が違っても楽しめるコンテンツを提供していきたい。

導入されたばかりの情報端末に関しての調査は行われてこなかったため、現状を知るひとつの手がかりとなった。まずは、現在利用している年齢層から周囲に利用が伝播していくような仕組みをつくることで、幅広い年代に利用してもらえる身近なコミュニティの情報を知るツールとなりうるだろう。今回の調査ではインタビュー調査を主としたが、今後は実際に情報端末で配信していくコンテンツ制作をしていきたい。

#### <インタビュー調査項目のまとめ>

	電話のみ	電話+情報	電話+機能	情報のみ	その他機能のみ	計
毎日	1	3	0	3	0	7人
週3日程度	4	1	0	0	0	5人
週1日程度	1	0	1	0	0	2人
月1日程度	4	0	0	0	0	4人
適宜	0	0	0	2	0	2人
全く利用しない						7人
計	10	4	1	5	0	

※ 「情報」とは、配信されてくるコンテンツのことを指す。(例：村からのお知らせ)

※ 「機能」とは、情報端末に内蔵されている「メモ帳」「フォトフレーム」などを指す。

#### ②利用するのは、どのようなときですか？(自由回答)

- ・ 電話のみ
- ・ 村の行事確認
- ・ 料理レシピ
- ・ 村のお知らせ。なつかしいニュース大好きです。
- ・ 三宅村の情報を知りたい時。毎朝、仕事に出かける前に見ています。

#### ③利用しない理由を教えてください。(自由回答)

- ・ コードの長さが変えられなくて移動できない。いきなり導入された。
- ・ IP電話番号を覚えていない。
- ・ 顔が見られるのが恥ずかしい。
- ・ 船や飛行機の運航情報が配信されてくれれば便利。